

看護学部看護学科のディプロマ・ポリシー

看護学部看護学科では、人間の生命及び尊厳を基盤に豊かな人間性と高い倫理観を培い、保健医療福祉のチームの一員として責任をもって対象の課題解決に取り組む能力を身につける。様々な看護の問題に対し、論理的な思考及び判断に基づき適切な援助計画を立てて安全に実践する能力、対象のニーズを捉え意思決定を尊重し、健康の保持増進と疾病の予防ができる能力、生涯にわたり自己研鑽し専門職としての価値を向上させ社会に貢献する能力を養うという教育目標のもとに、卒業要件を満たした学生に学位（看護学士）を授与する。

看護学部看護学科のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の領域で以下の如く定める。

1. 知識・理解

- (1) 医療人の基盤となる高い教養と、看護学の専門的知識を身につけている。
- (2) 疾病を予防し、健康を回復し、苦痛を緩和し、健康を維持増進し社会に貢献するという看護職の課題と役割を理解している。
- (3) 幅広い知識体系を理解し、科学的根拠に基づいた論理的思考ができる。

2. 思考・判断

- (1) 生命及び人間の尊厳の理解に基づく人間性への深い洞察力を獲得している。
- (2) 対象となる人々を理解し、高い倫理感と責任感に基づき専門的判断ができる。
- (3) 国際的視野に基づき、看護の課題に取り組むことができる。

3. 関心・意欲

- (1) 社会の変化に柔軟に対応し、看護を発展させていくために、自ら研究し学問の発展に寄与する意欲を持っている。
- (2) ヘルスプロモーションの理念に則り地域社会に貢献できる。
- (3) 看護職の課題と役割を果たすために「主体的」かつ「継続的」な学習ができる。

4. 態度

- (1) 保健・医療・福祉の課題に対し、幅広い視野と円滑なコミュニケーションを用いてチームの一員として役割を意識し、協調性をもって連携協働する態度が形成できている。
- (2) 医療専門職として豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、責任感のある態度を執ることができる。
- (3) 自らを内省し、自己の成長のための課題に取り組み、保健医療専門職としての姿勢を身につけている。

5. 技能・表現

- (1) 高いコミュニケーション能力を身につけ、説明し同意を得て援助関係を形成できる。
- (2) 対象の個別性を尊重しニーズに応じた看護を安全に提供できる能力を身につけている。
- (3) 西洋医学だけでなく東洋医学も取り入れ、統合医療の概念を理解し対象のニーズに

沿った看護の提供ができる。

看護学部看護学科のカリキュラム・ポリシー

看護学部看護学科では、学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）教育目標を修得するために以下の方針で教育課程の編成・実施・評価を行う。

1. 初年次から教養教育及び医療倫理教育を実施し、医療人としての幅広い教養と豊かな感性を備えるとともに高い倫理観を持つ人間性を育む。
2. 生涯学び続けるための能力を身につけるために能動的学習を取り入れ、探求心を培い成果を伝える能力を養うために学習方法や研究方法を学ばせる。チームで協力して問題を解決する能力を養う。
3. 看護はあらゆる健康レベルの対象者に対応し、主にコミュニケーションを用いてニーズを確認することが重要であり、患者の権利を擁護する能力を養う必要があるために、コミュニケーション力を養う。
4. 解剖学、生理学、心理学といった幅広い知識体系に支えられる看護学は、患者の健康の維持増進のために論理的思考に基づいて看護計画の立案ができる能力を養う。
5. 看護職に必要な知識と技術を修得するために科目を各年次にバランスよく配置するとともに、東洋医学も学修できるよう配置する。
6. 看護職の社会的使命を理解し、地域社会に貢献する意欲を培う。保健医療福祉のチームの一員として、安全で安心できる環境を整えることができる能力を養う。
7. さまざまな健康レベルや発達段階の対象に対し、実際に実習場面で患者を受け持ち、ニーズを捉え、必要な看護実践を体験して学び、安全に提供できる技術を身につける。
8. ボランティア活動精神を養うために実体験をさせ、ボランティア精神の育成と体験の喜びを実感できる科目を配置する。

本学科の教育課程は、教養系科目として『人間と社会』、『自然の科学』、『言語と情報』、『医学教養』の各分野に区分し、専門系科目として『現代医学』、『看護学』の各分野に区分する。

上記カリキュラム・ポリシーを実現させるため、それぞれの分野に必要な科目を配置し、以下のように教育課程を構成する。

① 教養系科目

教養系科目では、『人間と社会』、『自然の科学』、『言語と情報』、『医学教養』に区分し、1年次を中心に医療人として倫理観と幅広い教養を修得できるような科目を配置する。

『人間と社会』では、初年次教育として大学教育を受ける上で必要となる基礎知識の修得を目的とし、必修科目として「大学の教育と研究」、「心理学」、「現代国語読解」、「基礎ゼミⅠ」、「学習技法」を開設する。特に「基礎ゼミⅠ」では、課題解決型の授業として、グループワークやプレゼンテーションを通して問題解決能力を養う。「大学の教育と研究」では、本学の建学の精神、教学の理念、沿革、教育目標を理解し本学学生として求められる学修態度と姿勢を明確にする。「心理学」では、心豊かな医療人として、患者の心理を可能な限り理解し、医療現場で必要となるコミュニケーションの方法を学修する。また、選択科目として「コミュニケーション論」、「日本国憲法（法学含む）」、「伝統医学の歴史と哲学」、「生活と環境」、「国際情勢の理解」、「京都の文化と健康」、「ボランティア」を開設する。

『自然の科学』では、医療を実践する上で必要となる人体の構造と運動に関する力学特性、人体に関わる生物現象、化学、統計的手法等を理解するため、「物質と自然の科学」、「生き物の科学」、「物質の反応」、「データ解析法」を選択科目として開設する。

『言語と情報』では、国際的な感覚を有した医療人の育成のため「英語Ⅰ、Ⅱ」「医療人のための英語Ⅰ、Ⅱ」、「英語コミュニケーション」、「中国語」、「フランス語」を開設する。また、医療人として聴覚障害者とのコミュニケーションを円滑に行うことができるよう「手話」の授業を開設する。なお、「英語Ⅰ、Ⅱ」及び「医療人のための英語Ⅰ、Ⅱ」は各科目とも2科目中1科目を必修選択とする。また、医療現場におけるコンピュータの役割を理解し、医療業務や看護学研究において必要となる情報を適切に処理できるよう必修科目として「情報科学」、選択科目として「医療情報学」を開設する。

『医学教養』では、医療人としての豊かな感性と倫理観で傷病者の様々な状況に対応できるように必修科目として「生命倫理」、「医学概論」、選択科目として「医療コミュニケーション学」を開設する。また、本学の特徴である東洋医学に関する授業科目として、必修科目「東洋医学概論」、選択科目「東洋医学診断学・治療学」を開設する。

② 専門系科目

専門系科目では、『現代医学』、『看護学』を学ぶ。人々の健康の保持増進・疾病の予防について論理的に看護を説明するには医学の基礎知識が必要であり、さらに健康回復や維持増進のために可能な限り患者個々の希望を取り入れた援助を計画し説明し同意を得る能力を備える必要がある。そのうえで、優れた技術を提供できる看護実践力・判断力・安心を与える態度を身につける必要がある。さらに人に対して侵襲のある医療的行為を行うことから、関係法規を理解しておく必要があるために次の科目を配置する。

『現代医学』では、「解剖学」、「生理学」、「生化学」、「栄養学」、「感染免疫学」、「薬理学」、「病理学」、「生殖健康論」、「疾病治療総論」、「疾病治療論Ⅰ」、「疾病治療論Ⅱ」、「疾病治療論Ⅲ」、「疾病治療論Ⅳ」、「疾病治療論Ⅴ」、「疾病治療論Ⅵ」を学修し、人体の機能や疾病な

どに関する理解を深める。また、医療人としての倫理観が持てるよう初年次から「生命倫理」、
「医療概論」、「医療コミュニケーション学」を開設する。

『看護学』を設置し、看護専門職の知識の基盤となる科目を必修科目とする。

看護の専門分野として、1・2年次に看護学として人間の各期における理解を深めるとともに、看護師に必要な看護学・医学の科学的知識を修得するため、『基礎看護学』『小児看護学』『母性看護学』『老年看護学』『慢性看護学』『急性期看護学』『リハビリ看護』『在宅看護学』『地域看護学』『精神看護学』『統合看護』に区分し、各分野で身につけておくべき知識と技術を修得する。「看護学概論」、「看護基礎理論」、「基礎看護援助論Ⅰ」、「基礎看護援助論Ⅱ」、「基礎看護援助論Ⅲ」、「看護過程論」、「ヘルスアセスメントⅠ」、「ヘルスアセスメントⅡ」、「成人看護学概論」、「急性期看護援助論Ⅰ」、「急性期看護援助論Ⅱ」、「慢性期看護援助論Ⅰ」、「慢性期看護援助論Ⅱ」、「終末期看護援助論」、「老年看護学概論」、「老年看護援助論Ⅰ」、「老年看護援助論Ⅱ」、「リハビリテーション看護学概論」、「リハビリテーション看護援助論」、「小児看護学概論」、「小児看護援助論Ⅰ」、「小児看護援助論Ⅱ」、「母性看護学概論」、「母性看護援助論Ⅰ」、「母性看護援助論Ⅱ」、「精神看護学概論」、「精神看護援助論Ⅰ」、「精神看護援助論Ⅱ」、「精神保健」、「在宅看護概論」、「在宅看護援助論Ⅰ」、「在宅看護援助論Ⅱ」、「公衆衛生看護学概論」、「研究方法論」、「看護管理学」、「災害看護学」、「国際看護・国際保健」、「看護学総合演習Ⅰ」、「看護学総合演習Ⅱ」を配置する。

実習は、1年次に「基礎看護学実習Ⅰ」、2年次に「基礎看護学実習Ⅱ」を配置し、3年後期から4年前期に専門領域の実習「急性期看護学実習」、「慢性期看護学実習」、「精神看護学実習」、「母性看護学実習」、「小児看護学実習」、「老年看護学実習」、「リハビリテーション看護学実習」、「在宅看護実習」また、全ての実習の最後に「看護総合・統合実習」を配置する。

選択コース受講者は、それぞれ「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」、「助産学実習」を配置する。

看護学の臨地実習においては、対象を理解し対象に応じた具体的なアプローチ方法を学習し、実践できる能力を養う。対象の健康維持・増進から疾病の回復過程、終末期にある対象のQOL(生活の質)の向上を目指した援助ができる実践能力を養う。また、地域において疾病の予防と健康で健かな生活を支援する方法を学び実践できる。実習中においては東洋医学の知識も使い、創造的で発展的で安全な看護実践を実施する。さらに、人間の生命および尊厳と権利を擁護し、それぞれの対象に応じた深い洞察と倫理に基づいた行動を身につける。また、人に対して侵襲のある医療的行為を行うことから、免許を持っている事の意味を知り、その責任と義務を果たすことが重要であることを理解して行動できるように「看護と法律」、「医療安全学」、「看護管理学」の科目を配置し、関係法規を学ぶ。また、専門職業人としての法的制約や保護などを学び、卒業後の様々な場で活躍できるための基本的な法律を理解する。

『健康とスポーツ』では、必修科目「フィールドワーク実習」、選択科目「健康とスポーツ実習Ⅰ」、「健康とスポーツ実習Ⅱ」、「健康とスポーツ実習Ⅲ」を通じて、自身の健康維持増進や対象の健康指導等に生かす目的で、健康づくりのための運動指導の知識を修得する。

③ キャリア教育

キャリア教育として「看護学総合演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」を配置し、4年間を通し看護者としての倫理的思考や、社会人としての基礎的な知識と思考力を高める。また、看護技術の修得状況を実習で確認し、看護師として働くために必要な力を養う。そして、自ら探求すべき課題を提起し、幅広い視野で医療を考え、チームで問題解決を実践する能力を養うため「基礎ゼミ」を開設し、「東洋医学概論」、「東洋医学診断学・治療学」、「コンプリメンタリーセラピーⅠ，Ⅱ」を配置する。その具体的な手法として「看護に生かす補完代替療法論」、「統合医療概論」、「メディカルアロマセラピー概論」、「メディカルアロマセラピー演習」、「メディカルアロマセラピー実習」、「スキンケア」を学ぶ。さらに、ボランティア活動精神を養うために「ボランティア」を配置する。生涯にわたり自己研鑽し専門職としての価値を向上させ、社会に貢献する能力を養うことを目的に「卒業研究」を配置する。指導教員のもとで研究テーマを個人もしくはグループで定め、実験、研究、調査、あるいは文献講読、症例研究など様々な方法を学び身に着ける。

看護学部看護学科のアドミッション・ポリシー

明治国際医療大学は、『“和の精神”を真髄となし、東西両医学を有機的に関連づけて、社会に貢献できる医療人を育成する』という建学の精神のもとに、保健医療の分野で国民の健康と福祉に寄与することのできる“実践力ある心豊かな医療人”の育成を目指しています。

本学ではこの目標に向け、①豊かな人間性、②東西両医学を有機的に関連づける実践力、③保健・医療・福祉の発展に寄与する能力を備え、④医療の国際化に対応しながら地域の特性を踏まえて社会貢献ができる優秀な人材の育成を指針としています。

また、全学部共通として自己を律する心、他者を気遣う心、コミュニケーション能力、さらに生涯学び続けようという強い意欲を持つ人を求めています。

看護学科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

人間の尊厳を大切にし、高い倫理観と使命感をもって保健医療職として社会に貢献したいという強い意志を持つ人物を求めます。

1. 看護学の教育目的を理解し、保健医療専門職として必要な知識を修得することを目指して粘り強く学び続けられる人
2. 看護に必要な知識技術の修得のために、人体の疾病の成り立ちと回復の過程を理解するための基礎学力を有する人
3. 人間愛を基盤として、専門職として正義感と責任感を持って人々の幸福を支える健康や福祉に貢献することを自ら考え行動できる人
4. 基本的マナーを身につけ、規律を重んじ自分自身を客観的にみつめ、和の精神と奉仕の精神を持って多様な人々と協働できる人

入学までに身につけてほしいこと

入学後の教養系教育及び専門系教育に十分に対応できる資質として、高等学校等での教科科目に関しては、下記の(1)～(5)を入学時までには修得しておくことが求められます。

教科	内容
(1)国語	様々な文章（特に論理的な文章）を読み内容を理解する能力及び考え方を深め、積極的に自己の考えをまとめて表現できる能力
(2)英語	基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション力
(3)数学	基本的な数学の知識を習得し、論理的な思考を展開できる能力
(4)理科	生物」「化学」及び「物理」の基本的な知識
(5)基本的生活	日常の基本的マナーや生活習慣を身につけており、人に対して思いやりのある柔軟な態度